

日本軽金属ホールディングス株式会社

「2025年3月期第1四半期末 決算説明会」 質疑応答要旨

- ・日時：2024年7月31日（水）17時～17時40分
- ・説明者：取締役 上席執行役員 松平 弘之  
執行役員 コーポレートスタッフ統括室 経理担当 高橋 晴彦  
企画統括室長 一色 浩一  
コーポレートスタッフ統括室 経理担当 天谷 勝裕

Q1 24年度上期営業利益を5月公表予想の55億円から今回7月予想で80億円に上方修正、4セグメント中、3セグメント（アルミナ・化成品、地金、板、押出製品、箔、粉末製品）で増益予想としているが要因は？

A1. 箔、粉末製品セグメント（箔事業グループ）の医療用加工箔、とりわけインドが好調であり、アルミナ・化成品、地金セグメントの化成品事業グループで増販効果が比較的堅調に出ている。加えて、板、押出製品セグメント（軽圧事業グループ）において、板部門は半導体製造装置向け厚板の本格的な販売回復時期はまだ先の前提であるものの5月公表予想よりは若干増量を見込んでおり、押出部門も半導体製造装置向けが上向きであり、アルミニウム地金価格は1Qが上昇局面にあったことが主な増益要因。

Q2. アルミニウム地金価格上昇による業績影響額は？

A2. （1Qで）10数億円程度。ただ2Qにおいてはアルミ地金価格が逆に下がり局面であることを含めたボラタイルな値動きに対して注視をしている状況。

Q3. 通期業績予想は5月公表予想のまま据え置いているが、下期業績予想の見方は？

A3. アルミニウム地金価格が7月に入り軟調で市況価格動向に不透明感があること、各事業グループともに外部環境に対し厳しめの見方をしていることもあり、5月公表予想よりは若干押し目の見方をしている。

Q4. 箔、粉末製品セグメント（箔事業グループ）は1Qより2Qが少し失速しているように見えるが、背景は？

A4. アルミニウム地金価格が2Qで押し目になっていることに加え、箔部門の車載用リチウムイオン電池用外装箔の在庫調整局面が継続していることから、2Qの需要見通しを5月公表予想より若干下げている。

Q5. 上期と通期の業績予想について、板、押出製品セグメントは増益の予想に対し、加工製品、関連事業セグメントは減益予想としているが、両セグメントの見通しをど

のように変えたのか？

A5. 今回からのセグメント構成組替えにより、板、押出製品セグメントにあった自動車部品事業を加工製品、関連事業セグメントの自動車部品事業グループ（日軽金ALMO）へ集約したため、両セグメントの業績の見え方が変わったことを補足しておく（説明資料にある23年度実績・24年度5月公表予想の数値も今回のセグメント構成組替えに基づき算定した数値に置き換えて記載）。5月公表予想時点からの変化は、自動車部品事業グループ（日軽金ALMO）の中国事業や米国事業の見方を厳しめにみている。

Q6. 箔、粉末製品セグメントは下期以降も堅調が継続するとみているのか？

A6. 箔部門、パウダー・ペースト部門、日用品部門いずれも上期は堅調に推移しているものの、下期以降、自動車関連での車載用リチウムイオン電池用外装箔に加え、自動車塗料向けの見方が弱含みであることから、上期に対して少し減速感を織り込んだ業績予想としている。

Q7. 自動車関連と半導体関連の事業環境に対する見方について、5月公表時点と今回7月公表時点での違いは？

A7. 自動車関連について、特に自動車部品事業グループ（日軽金ALMO）の事業環境が国内・海外ともに5月公表時点よりは若干悪化している。国内はEV化の遅れにより新商品の上市スケジュールを後ろ倒ししている。海外は中国における日系自動車メーカー低迷の影響に加え、米国新工場が量産移行により8割程度まで稼働が上がっているものの操業開始間もないことから、固定費負担の大きさを含め業績面で厳しい状況を織り込んでいる。また板部門で扱っている車載用のリチウムイオン電池ケース向け板材の需要予想も弱含みの見方としている。

半導体関連について、半導体製造装置向けは板部門における厚板を中心に下期からの回復を予想している。一方でエンジニアリング事業グループのパネルシステム部門における半導体関連メーカー向けクリーンルーム分野はここ2年程旺盛な需要に支えられ堅調に推移しているものの、資材高騰や人手不足による工期後ろ倒しや投資時期見直しの影響もあり、1Q及び上期で減速感が出ていることから、若干不透明感のある見方としている。

Q8. 板部門の半導体製造装置向けの厚板は、1Qから2Qかけて需要が増え始めているということか？

A8. 下期以降に需要が増え始めてくるというのが現時点での見方である。足元（1Qおよび上期）の販売量は前年同期比では増加しているものの、本格的な需要回復としてはまだ捉えていない。

- Q9. アルミニウム地金価格の上昇による、輸送機器事業グループ（日本フルハーフ）の業績回復基調に対する影響は？
- A9. 軽圧事業グループ（板部門、押出部門）のようにアルミニウム地金価格変動分を販売価格に自動的に転嫁されるフォーミュラが無いことから、日本フルハーフにとって、地金価格上昇分がそのままコストUPするのみである。これに対しては、日本フルハーフが取り組んでいるコストUP分の販売価格への転嫁や価格是正を粛々と続け、下期も引き続き確固とした収益の黒字化を目指しているところ。
- Q10. エンジニアリング事業グループのパネルシステム部門の事業環境の見方について、5月公表時点と今回7月公表時点での違いは？
- A10. 大枠の見方に違い・変化は無い。ただ足元（1Qおよび上期）は、食品工場向けや低温流通倉庫向けの大型物件などで、資材高騰や人手不足による工期後ろ倒しや投資時期見直しの影響により、1Q業績や上期業績予想は前年同期比でマイナスとなっている。ただ下期については、不透明感はあるものの、依然として受注水準が高いことに加え、物件数確保の施策も行っていることから、5月公表の業績予想から大きく外れることなないとみている。
- Q11. 自動車部品事業グループ（日軽金 ALMO）の中国事業の見直しは？
- A11. 当社海外事業の基本である「地産地消」を前提に、現地ニーズに見合った構えを考えることになるが、足元、中国系EVメーカーが進展している状況下、当社のメインのお客様である日系自動車メーカーの施策・動向を注視したうえで、当社としてどうあるべきかを検討するステージにあると考えている。

以上